

令和7年度 学校評価（関係者評価）シート

学校名	加古川市立平岡南小学校
-----	-------------

1 教育目標	自ら学び続ける心豊かな児童の育成
--------	------------------

2 基本方針	～生きる力を育てる教育活動の充実～
--------	-------------------

3 指導目標	めざす学校像 ①児童が行きたい学校 ②保護者・地域が通わせたい学校 ③教職員が働きたい学校 めざす児童像 ①すすんで学ぶ子 ②思いやりのある子 ③たくましい子 ④やりぬく子 ⑤夢を語れる子
--------	---

評価基準  
 A:できている B:だいたいできている C:あまりできていない D:できていない E:わからない

重点目標	評価項目	達成状況	成果と改善の方策	自己評価の適切さ（関係者評価）	達成状況
児童が行きたい学校	③学級経営や授業において、児童理解に努め、一人一人の学習状況や家庭環境、教育的ニーズを把握している（97.1%） ④いじめ・不登校・問題行動等の早期発見に努め、情報を共有し、組織的に対応している（85.8%） ⑤心の相談アンケート等を共有し、活用している（62.8%）	A	○学年で情報を共有し合い、児童理解に努めている。特に、その日のうちに起こったことは学年で共有している ○すぐに学年団と管理職に共有・相談をし、その日のうちに問題解決をしている ○失敗しても大丈夫なことを伝え、子どもが自信をもって取り組める環境を用意している ○インターネット・SNSのトラブルでは関係学年間で問題を共有し、複数学年でネットトラブル防止講座に参加する等、連携して問題解決に取り組めた ○見守りや支援が必要な子どもについての情報を共有し、必要な支援の方法を話し合うことができた  △情報の提供や共有はできているが、活用場が少ないと感じる  ●「記録や日々の様子、学習状況など」「学年団やSA、管理職、保護者と情報共有」から、指導方法や関わり方（教育的ニーズ）を考えていきたい ●共通理解し、把握した事実や記録をきちんと引き継いでいきたい	・児童と教職員の良好な信頼関係に支えられた、現在の落ち着いた校風を今後も維持してほしい ・教職員間の情報共有や、アンケート等への誠実で丁寧な対応は保護者の信頼を得ており、高く評価できる ・学習指導やSNSトラブルへの対処方針について、保護者に対してより具体的に透明性の高い説明を尽くすべきである ・家庭環境の変化を注視し、保護者が意見を伝えやすく、学校と共に子どもを支え合える連携体制を早急に整える必要がある	A
保護者・地域が通わせたい学校	⑥地域とともにある学校づくりに向けて、地域・保護者との連携が（70.4%） ⑦保護者や地域からの相談や要望に、適切に対応できている（94.3%） ⑧校舎内・外は美しく整備され、児童への指導も適切である（85.7%）	B	○保護者の声に耳を傾け、できる限り対応している ○地域の方から下校態度や放課後の過ごし方等の連絡があれば学年で情報共有をし、子ども達に指導している ○保護者とは電話や連絡帳を通じて良好な関係を築けるようにしている ○ふるさと祭では「子ども達のために」と地域の方々に大変お世話になった。また、図書ボラをはじめ、校庭の草刈りや砂場の整備等に尽力いただいた ○もくピカ掃除では、多くの児童が集中して清掃に取り組んでいる  △「家庭からの過剰な要望」「家庭から相談が事実と異なる」「保護者の受け入れる姿勢」など保護者の思いと学校（教師）の思いやできることがマッチしていない △保護者の要望の中に学校が介入できない要件があるように感じる △学校のきまりを守らない親には苦心している  ●学校だよりを地域版として町内で回覧している学校もあるので、検討してはどうか ●保護者の要望をどこまで聞くか、校外での児童間トラブルに教員がどこまで介入するのかの基準を明確にし、保護者に提示できないか検討したい	・教職員と児童・保護者の信頼関係を基盤に、現在の落ち着いた校風と魅力的な教育活動を継続したい ・学習評価やSNS対策、学校便りの共有方法等、様々な情報発信を工夫し、保護者への伝達の精度を高めてほしい ・保護者の多様化に対応するため、地域住民や民生委員等との交流機会を設け、学校・家庭・地域の重層的な連携を図る必要がある ・登下校時トラブル等の早期対応を徹底するとともに、保護者との根気強い対話を通じて相互理解と信頼関係の構築に努めることが大切である	B
教職員が働きたい学校	⑨業務改善や記録簿を活用する等して、勤務時間の適正化に努めている（71.5%） ⑩風通しの良い職場環境づくりに取り組んでいる（94.3%） ⑪実践的指導力の向上を図る研修が実施され、教職員が高め合う組織的な研修が推進されている（65.7%）	B	○仕事の優先度や期限を明確にし、見通しをもった業務遂行や定時退勤日を意識されている職員が多くなっている。また、学年業務をできるだけ少なくするように努力した ○割り振りがとりやすい環境が作られている ○学年団で指導案の作成や検討ができた  △一人1授業なら学年で違うところを本時に設定する。授業研究を重視するなら、学年代表1人だけが授業をする。他のクラスは管理職が参観する等の工夫が必要である △一人1授業や若手研修など、研究授業の時間が多すぎる △若手の先生に負担がかかっているという意見があり、若手研修に検討が必要である  ●9年度、人権教育実践発表があり同和問題の取り組みことを考慮すると、2年間は同和教育にシフトチェンジしてもよいのではないかと ●協同的探究学習だけでなく、幅広く授業実践・研究に取り組むのはどうか	・教職員の業務負担を軽減し、特定の職員に過度な負担が集中しない持続可能な運営体制を構築する必要がある ・地域との連携を深め、教職員が意欲を持って教育活動に専念できる支援環境を整えていきたい ・授業研究や研修の質を維持しながら、教職員の資質向上と負担軽減を両立させるための効率的な工夫を模索する機会が大切である ・職業名に限定されない多様な「夢」のあり方を尊重し、児童が自己の良さや他者への思いやりを育めるよう導いてほしい ・時代の変化に合わせておくことも必要、普遍的に大切にすべき教育の価値観を堅持していくことも必要である	A
夢を語れる子	⑫在りたい自分をイメージし達成目標を持たせ、実現に向けて取り組めるよう支援している（74.3%） ⑬夢をもつ良さを児童に語りかけるとともに、キャリア教育を通して実現に向かう姿勢を育てている（62.9%）	A	○「夢や将来」を身近に捉えさせるため、総合的な学習の時間やスピーチ活動を軸とした機会創出に努めた ○帰りの会のスピーチや関連単元を通じ、自分の夢を言葉にする習慣をつけた ○キャリアパスポートを活用した振り返りや未来の自分を実現するための具体的な行動を考えさせ、在りたい自分について言語化できるよう指導を行った ○総合的な学習の時間での職業調べに加え、校長講話や行事と連動させより深く将来を展望させたり、「将来の夢」について考え参観授業で発表したりした ○自立活動を通じた仕事への意識付けや、教科の専門性を生かした職業観の育成に努めた ○保護者からは「お子さんは夢について話をする（67.8%）」と昨年度（60.7%）より向上している ○子どもは「夢がある（83.7%）」と答えており、昨年度（84.6%）と大差はない  △職業人から話を聞くとつなげる体験的な学びの推進が必要である  ●「教師主体になる場面がある」「意見を出しやすいような雰囲気づくり」「自分たちで作っていく感覚の育成」等が課題である	・児童が自分の夢を表明し、互いに良い刺激を受けられる発表の場を、今後も積極的に設けてほしい ・地域住民や外部の知見を取り入れた講演会を定期的開催する等、児童の視野を広げる機会をつくりたい ・夢を単なる職業名ではなく、自身の得意や好きを活かした「生き方」として捉え、挫折に屈しないしなやかな心を育てていきたい ・児童が自らの良さを肯定し、自信をもって生活できる環境こそが夢を育む土台であると認識し、その醸成に注力すべきである ・教職員と児童が「夢」への意識を共有し、学校全体で一貫性のある取組を継続的に推進していきたい	A